

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 6 点

【模範解答例】今日の社会の継続的変化を支える (A 2 点)  
進歩の特殊なメカニズムが、どのようなものかを  
分析するという問題。 (47 字) (B 4 点)

◎各加点要素の加点の条件

【A・B に関して部分採点を行う】

- A 進歩が社会の継続的変化を支えている
- B 進歩の特殊なメカニズムを分析する

問二 5 点

二

問三 各3点 (計15点)

a || □

b || イ

c || ホ

d || へ

e || ハ

問四 5 点

ホ

問五 各2点 (計4点)

Ⅰ. || □

Ⅱ. || □

問六 10点

【模範解答例】

言語の知識は個人の経験と密接に結びついたもので、人から人へと切り離して渡すことが困難だが、科学の知識は人から人へと切り離して同一内容のまま引き継ぐことができる。

(80字)

(D3点)

◎各加点要素の加点の条件

【A～Dに関して部分採点を行う】

- A 気位の高い(自尊心の強い・傲慢な) 令嬢
- B 画を描く少年に恋心をくすぐられた(少年との出会いがひと夏の思い出となった)
- C 体験を現実以上に美しく崇高なものにする(少年を天才と呼び、思い出を美化する)
- D 心を満たそうとした(感傷に浸ろうとした・昇華しようとした・自分を納得させようとした) から

問七 5点

ハ

【二】(評論) 採点基準(合計1150点)

問一 各2点(計8点)

- |   |    |   |              |
|---|----|---|--------------|
| 1 | 輪郭 | 2 | 報酬           |
| 3 | 意匠 | 4 | 造作(「雑作」も認める) |

問二 各2点(計4点)

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 一 | ハ | ニ |
|---|---|---|

問三 5点

【模範解答例】 光や (A① 1点)

色彩などの (A② 1点)

強い知覚上の刺激 (5字) (B3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・Bに関して部分採点

A 「光や色彩などの」(2点)

※「強い知覚上の刺激」の具体的な内容の指摘。

① 「光」を指摘して1点。

② 「色彩」を指摘して1点。

B 「強い知覚上の刺激」(3点)

※「美の三要素」のうち、第2段落に示されている内容の指摘。

△「きわめて単純に強い知覚上の刺激」は▲2点減で△3点。

問四 9点

【模範解答例】多くの人々が、 (A 2点)  
その中に恒常的なものや本質的なものの姿を見いだせる普遍性を持ち、 (B 5点)  
鑑賞した人を引きつけるような美術品。 (57字) (C 2点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・Cに関して部分採点

A 「多くの人々が」(2点)

※「万人」についての言い換え。

△「万人が」は、本文の表現を言い換えていないので▲1点減で△1点。

B 「その中に恒常的なものや本質的なものの姿を見いだせる普遍性を持ち」(5点)

※フェルメールの絵についての記述(第8段落)を利用して「美術品」を説明。

△「その中に恒常的なものや本質的なものの姿を見いだせる普遍性を持ち」は、「本質的なもの」についての指摘が抜けている場合は、説明不十分と考えて▲1点減で△4点。

△「その中に本質的なものの姿を見いだせる普遍性を持ち」は、「恒常的なもの」についての指摘が抜けている場合は、説明不十分と考えて▲1点減で△4点。

△「その中に恒常的なものや本質的なものの姿を見いだせるもの」として、「普遍性を持ち」が抜けている場合は、説明不十分と考えて▲2点減で△3点。

\*この△の3パターンについて、「恒常・本質」で3点(どちらかが抜けたら2点)・「普遍」で2点。

×「複雑な万象から規則や構造を見いだし整理する」という本文の表現を使っている場合は、「脳の働き」の説明に当たる部分であるので、Bは×0点。

C 「鑑賞した人を引きつけるような美術品」(2点)

※「万人を引きつける」の「引きつける」の部分の指摘。

○「鑑賞の際に快感を得られるような美術品」も可。

×「情動や感興を誘う作品」は、「美の三元素」のうちの二つ目についての説明に当たるのでCは×0点。

問五 10点

【模範解答例】

その作品のあいまいさからくる解釈可能性や、 (A 3点)

あえて未完成にしておくことで想像力をかきたてることにより、 (B 3点)

恒常的で本質的なものを間接的に感じさせるような

表現をすることができるところ。 (87字) (C 4点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・Dに関して部分採点。

A 「その作品のあいまいさからくる解釈可能性や」(3点)

※フェルメールの作品からの説明。

△「あいまいさ」に対応する「解釈可能性」が示されていない場合は、フェルメールとミケランジェロの作品をまったく同じ質にとらえているので▲2点減で△1点。

B 「あえて未完成にしておくことで想像力をかきたてることにより」(3点)

※ミケランジェロの作品からの説明。

△「未完成」に対応する「想像力をかきたてること」が示されていない場合は、フェルメールとミケランジェロの作品をまったく同じ質にとらえているので▲2点減で△1点。

C 「恒常的で本質的なものを間接的に感じさせるような表現をすることができるところ」(4点)

※「直接的に表現する必要はない」ことの言い換えと理由の説明。

○「恒常的で本質的なものが補完されることになるから」も可。

△「恒常的で本質的なものを感じさせるような表現をすることができるところ」と「間接的」について触れていない場合は、説明不十分と考えて▲2点減で△2点。

問六 14点

【模範解答例】

美は人々の心に作用し、 (A①2点)  
感情や思考や行動を左右して社会を作るといえるが、 (A②2点)  
社会を形成するといえるが、 (A③2点)  
その社会がさらに次の美を導き出すというように、 (B2点)  
美と社会はどちらが先立つというものではなく、 (C2点)  
相補的・双方向的に (D①2点)  
機能し合うものであるということ。 (118字) (D②2点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「美は人々の心に作用し、思考や感情を左右して社会を作るといえるが」 (6点)

※「美が社会を作る」ことの説明。

① 「美は人々の心に作用し」に触れて2点。

② 「思考や感情を左右して社会を作る」に触れて2点。

③ 「だから」(美が) 社会を形成する」に触れて2点。

○ 「美は社会を形成する思考や行動を左右している点で社会を形成する」も可。(①②③を言い当てている)

B 「その社会がさらに次の美を導き出すというように」(2点)

※「社会が美を導き出す」ことの説明。

C 「美と社会はどちらが先立つというものではなく」(2点)

※美と社会の関係性(どちらかが先ではないこと)の説明。

○ 「社会が美を作るのではなく」も可。

D 「相補的・双方向的に機能し合うものであるということ」(4点)

※美と社会の関係性(相補的に機能し合うこと)の説明。

① 「相補的・双方向的に」に触れて2点。

② 「機能し合うものであるということ」に触れて2点。

○ 「(Aに触れられていて) 社会が美を強化するという相補的・双方向的なものである」も可。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 4 点 × 3

問一・A

【模範解答例】小宰相の面影ばかりが我が身にびったりと寄り添うように思われて、  
忘れる時もなかったので、 (B 2 点) (A 2 点)

【各部の採点】4 点満点。加ポイント 2 箇所。

A 「小宰相の面影ばかりが我が身にびったりと寄り添うように思われて」…2 点。

「面影」を「小宰相の面影」としていること。(1 点) 「顔つき」も可。

「のみ」が「ばかり・だけ」もしくは「ひたすらく・しつかりく」と訳してあること。(1 点)

「身にひと立ちそひて」が「わが身に寄り添うような感じがして」などと訳してあること。(1 点)

この三カ所中、二カ所以上間違っておれば、A 0 点。

B 「忘れる時もなかったので」…2 点。

「ひま」を「時・瞬間」などと訳してありこと。「暇」では×。「なかったので」のように過去十原因理由になっ  
ていること。完答。

問一・C

【模範解答例】他に落とす場所はいくらでもあろうに、 (A 2 点)  
(よりによって) 女院の御前に (B 1 点)  
通盛からの手紙を落とすまわられた。 (C 1 点)

【各部の採点】4 点満点。加ポイント 3 箇所。

A 「他に落とす場所はいくらでもあろうに」…2 点。「所」を「手紙を」落とす場所」…1 点。

「こそ多けれ、」を「いくらでもあろうに」もしくは「たくさんあるのに」のような逆接の意。…1 点。

B 「女院の御前に」…1 点。「御前」を「女院の御前」と訳す。

C 「通盛からの手紙を落とすまわられた。」…1 点。

「文」を「通盛の手紙・恋文」のように訳してあること。

「落とされたり」を「落としてしまわれた」のように尊敬十過去十完了の意で訳してあること。完答。



問一・E

【模範解答例】

小野小町のことを見る者や噂に聞く者は、

(A 1点)

心を痛ま (B 1点)

せないということがない。 (C 2点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。

A 「小野小町のことを見る者や噂に聞く者は」…1点。

「小野小町のこと」のような言葉が補足されていること。

B 「心を痛ま」…1点。

「胆たましひを痛ま」の解釈。「ときめく」も可。

C 「くせないということがない」…2点。使役十二重否定の解釈。完答。

問二 各2点(計8点)

1 || ロ

2 || ニ

3 || イ

4 || ニ

問三 5点

【模範解答例】

牛車に放置したり、大通りに捨てたりすることで、

(A 1点)

通盛からの恋文を人に知られたくなかった

(B 3点)

から。(45字) (C 1点)

【各部の採点】 5点満点。加ポイント3箇所。

A 「牛車に放置したり、大通りに捨てたりすることで、」…1点。

「(手紙を) 牛車に置いておく、外に捨てる」などという放置するという内容。

b 「通盛からの恋文を人に知られたくなかった」…3点。

「道盛の手紙を人目にさらしたくない」のニュアンス。「手紙を人目にさらしたくない」のように「通盛の」のな  
いものは2点。「通盛との関係を人に知られたくない」は2点。

c 「から」…1点。文末処理。ここだけの正解は点数に入れない。

問四 4点

【模範解答例】通盛が (A 1点)

小宰相に言い寄っていた (B 2点)  
こと。(17字)(C 1点)

【各部の採点】4点満点。加ポイント3箇所。

A 「通盛が小宰相に」…1点。

具体的に「通盛」「小宰相」という人名をあてる。

B 「言い寄っていた」…2点。

「恋をする」は1点。

C 「こと」…1点。文末処理。ここだけの正解は点数に入れない。

問五 (1) 4点 (2) 5点

(1) a 文 b 踏

(2)

【模範解答例】手紙の返事をしたからには、 (A 2点)

小宰相はきつとなびくに違いないという (B 2点)

こと。(34字)(C 1点)

【各部の採点】5点満点。加ポイント3箇所。

A 「手紙の返事をしたからには」…2点。

「手紙をしたので」「手紙を返したというのは」のニュアンス。

B 「小宰相はきつとなびくに違いないという」…2点。

「小宰相が好意を寄せるはず」の内容。「小宰相」の記載のないものは1点。

C 「ということ」…1点。文末処理。ここだけの正解は点数に入れない。

問六 8点

【模範解答例】あまりに気が強くて言い寄る男につれなくあつた結果、(A 2点)  
みじめな晩年を送つたという小野小町のようにならないために、(B 2点)  
小宰相に通盛を受け入れさせよう (C 3点)  
とする意図。(76字) (D 1点)

【各部の採点】8点満点。加ポイント4箇所。

A 「あまりに気が強くて言い寄る男につれなくあつた結果」…2点。

「あまりに強情に男性を退けている」の内容。

B 「みじめな晩年を送つたという小野小町のようにならないために、」…2点。

「晩年にみじめな生活を強いられた小野小町の例をあげて」の内容。

C 「小宰相に通盛を受け入れさせよう」…3点。

「小宰相に通盛と交際するように」の内容。

D 「とする意図」…1点。文末処理。ここだけの正解は点数に入れない。

問七 各2点(計4点)

ロ・二

【四】(漢文)採点基準(合計1150点)

問一 2点(計8点)

- a 11 いわゆる                      b 11 いやしくも(別解 かりそめに)  
c 11 いかんを                      d 11 ここにおいて

問二 5点

鄙人不レ可ニ与事レ君

問三 各4点(計8点)

①

【模範解答例】口がうまく (A2点)

主君に媚びへつらう臣下 (B2点)

②

安昌侯張禹(「張禹」「安昌侯」も可)

問四 9点

【模範解答例】自ら辞職の覚悟をし、命を懸けて、 (A3点)

成帝に (B2点)

朱雲の処刑を (C2点)

思いとどまらせる(ための行動)。(D2点)

◎採点基準

A 「自ら」「自分で」「自らの」などはなくとも可。

「辞職の覚悟」または「命を懸けて」のどちらかだけのもの…減点1。

C 「処刑」は「死」「殺す」など同類の表現があれば可。

D 「思いとどまらせる」は「やめさせる」「止める」なども可。

C・D まとめて「朱雲の意見に賛同する」など…2点。

文末表現 (ための行動)につながらないもの…減点1点。

問五 5点

【模範解答例】かふる( ) ( ) かうる「も可」(A 3点)  
なかれ。 (B 2点)

◎採点基準

文末「。」はなくとも可。

文が完成していない、「かふる」のみ、「なかれ」のみは不可。

問六 5点

直

問七 各5点(計10点)

①

【模範解答例】強く (A 2点)  
諫めること。 (B 3点)

◎採点基準

A 「命を懸けて」「職を賭して」なども可。

B 「忠告する」「やめさせる」なども可。

②

【模範解答例】厳しく (A 2点)  
責めさいなむこと。 (B 3点)

◎採点基準

A 「はげしく」「つよく」「暴力」など可。

B 「体罰」「とる」「罰する」など可。

「虐待」は不可。

「悪事」などは不問。